

## マタイ福音書8-9章の構造分析

8章は、

1. A 8:1-4
2. B 8:5-13
3. A' 8:14-17
4. C 8:18-27
5. D 8:28-34

9章は、

1. B 9:1-8
2. C 9:9-17
3. A', A, A' 9:18-19, 20-22, 23-26
4. D 9:27-34

A: 汚れをきよめる A': 死・病いから立ち上がる B: 中風を癒す権威 C: 付き従う、つまづく D: ふたりの悪霊人  
「神の子よ」ふたりの盲人「ダビデの子よ」

11:5-6に書かれている救いのわざがそれぞれに書かれている段落です。

"目の見えない者たちが見、足の不自由な者たちが歩き、ツアラアトに冒された者たちがきよめられ、耳の聞こえない者たちが聞き、死人たちが生き返り、貧しい者たちに福音が伝えられています。だれでも、わたしにつまずかない者は幸いです。"

## DeepSeek DeepThink R1

マタイ福音書8章と9章の構造分析を、11:5-6の救いのわざとの関連から以下のように整理します。

### 【構造の核心テーゼ】

マタイは8-9章を「5つの救いのわざ（11:5-6）の実演舞台」として設計し、A/A'・B・C・Dの反復・交差構造を通して、イエスが「メシア的権威の多面性」を啓示することを意図した。特に「つまづく者」

（11:6）への呼びかけは、C（弟子の応答）の配置によって、奇跡の物理的効果から信仰的決断への重心移動を暗示する。

### 【章別構造の詳細分析】

#### ■ 8章の構造：

### 1. A (8:1-4) 「ツアラアの清め」

▶ 11:5 「ツアラアに冒された者たちがきよめられ」に対応。律法の枠を超える「触れる」(8:3)という能動的愛。

### 2. B (8:5-13) 「中風の僕の癒し」

▶ 「わたしの下に...権威を持っている」(8:9)で異邦人の信仰を称賛。11:5 「足の不自由な者が歩き」の先取り。

### 3. A' (8:14-17) 「病いからの解放」

▶ ペテロの姑の「熱病からの立ち上がり」(8:15)と「悪霊追放」の二重成就。イザヤ53:4引用でメシア的受苦の予兆。

### 4. C (8:18-27) 「弟子たちのつまずき」

▶ 「枕する所もない」(8:20)との逆説的招きと「なぜ怖がるのか」(8:26)の叱責。11:6 「つまずかない者」の伏線。

### 5. D (8:28-34) 「悪霊との対決」

▶ 「神の子よ」(8:29)という悪霊の叫び。メシアの戦勝を暗示するが、人々は拒絶(8:34)。霊的盲目の予兆。

---

## ■ 9章の構造：

### 1. B' (9:1-8) 「中風の癒しの再演」

▶ 8章Bの深化。「人の子が地上で罪を赦す権威」(9:6)と癒しの結合。11:5の「歩き」+赦しの福音的拡張。

### 2. C' (9:9-17) 「招きと応答の拡張」

▶ マタイの召命(9:9)と「新しいぶどう酒」(9:17)の譬え。従う者への根本的変革を要求。

### 3. A"-A-A' (9:18-26) 「死・病い・死の三重奏」

- A" (9:18-19) : 少女の死→復活予告(11:5「死人たちが生き返り」)
- A (9:20-22) : 12年間の出血の女の清め(律法的「汚れ」の打破)
- A' (9:23-26) : 少女の復活でA"完結。  
▶ 死と病いへの完全支配を立体化。

### 4. D' (9:27-34) 「二重の癒しと拒絶」

- 盲人の「ダビデの子よ」(9:27) → メシア的称号の受容(11:5「目の見えない者たちが見」)
- 悪霊追放への「ベルゼブル論争」(9:34) → D(8:34)の拒絶の再現。  
▶ 光と闇の対比が頂点に。

---

## 【11:5-6との対応図式】

11:5-6の救いのわざ	8-9章の該当箇所	神学的焦点
目の見えるようになる	9:27-34 (D')	メシア的称号の受容
足の不自由な者が歩く	8:5-13 (B) ・ 9:1-8 (B')	権威の根源 (赦し)
ツアラアトの清め	8:1-4 (A)	律法の越境
耳の聞こえるようになる	(間接的) 9:32-33 (悪霊による聾)	靈的聴覚の回復
死人復活	9:18-26 (A''-A')	終末的勝利の前倒し
貧しい者への福音	9:35-38 (構造外だが次章へ架橋)	宣教の拡張

## 【構造の神学的意義】

### 1. メシア的権威の層的啓示

「清め (A) → 赦し (B) → 復活 (A') → 創造支配 (D)」と、イエスの権威が宇宙論的規模に拡大。特にD/D'で「神の子」「ダビデの子」の二称号を使い分け、神性と王権を併せ示す。

### 2. 逆説的信仰の教育

C (つまずき) が各章の中央に配置され、「奇跡を見ても信じない」(8:34, 9:34) 人々と「何も見ずに信じる」(9:28 「わたしはそう信じます」) 盲人の対比が、11:6 「つまずかない者は幸い」へ収束。

### 3. イザヤ的メシア預言の成就

8:17でイザヤ53:4を引用し、病の癒しを「贖罪的受苦」の前兆と位置付ける。9章の赦しと復活は、イザヤ61:1 (「捕われ人に解放を」) の成就でもある。

この構造分析は、マタイが「イエスのわざを預言の成就として編纂した」という編集方針を浮き彫りにし、読者に「目で見える信仰」から「見ずに信じる信仰」(ヨハネ20:29) への転換を迫る戦略を明らかにします。

## ここまで並行している8章と9章ですが、どんな違いがありますか？

## DeepSeek DeepThink R1

マタイ福音書8章と9章は、構造的に相似性を持ちつつも、以下の点で明確な差異が存在します。これらの違いは、マタイが意図した神学的メッセージの階層的深化を反映しています。

### 【1. 癒しの「対象」と「焦点」の拡大】

#### ■ 8章：律法の越境と異邦人への視線

- **A (ツアラアトの清め)**
  - ▶ 律法で「触れてはならない」とされるツアラアト患者（レビ13-14章）にイエスが直接接触れる（8:3）。**律法的禁忌の打破**が主題。
- **B (百人隊長の僕)**
  - ▶ 異邦人（ローマ軍人）の信仰が称賛され（8:10）、「東から西から」（8:11）という普遍的救済が暗示される。

## ■ 9章：罪の赦しとユダヤ内の拒絶

- **B' (中風の癒し)**
  - ▶ 8章の「足の癒し」から「罪の赦し」（9:2）へ深化。**靈的癒し**が前面に。
- **D' (盲人の癒し)**
  - ▶ 「ダビデの子」（9:27）という**メシア的称号**がユダヤ人盲人から告白されるが、指導者は「ベルゼブル論争」（9:34）で拒絶。**ユダヤ内の分裂**が顕在化。

---

## 【2. 「つまずき (C)」の質的变化】

### ■ 8章：弟子の「物理的恐怖」

- **C (嵐の静め)**
  - ▶ 弟子たちの「信仰の薄さ」（8:26）が**自然の脅威への恐れ**として表現。イエスの「創造主としての権威」が啓示される。

### ■ 9章：従う者への「根本的変革要求」

- **C' (マタイの召命と断食論争)**
  - ▶ 「新しいぶどう酒は新しい皮袋に」（9:17）という**新しい契約の必要性**が宣言される。従来のユダヤ的慣習（断食）からの決別が迫られる。

---

## 【3. メシア的称号の進展】

### ■ 8章：悪霊の「神の子」宣言

- **D (悪霊追放)**
  - ▶ 悪霊がイエスを「神の子」（8:29）と叫ぶが、人々は拒絶（8:34）。**敵対者的なメシア認知**。

### ■ 9章：盲人の「ダビデの子」告白

- **D' (盲人の癒し)**
  - ▶ 盲人が「ダビデの子」（9:27）と呼びかけ、癒しを受ける。**メシア的王権の受容**が、社会的弱者から始まる逆説的構造。

---

## 【4. 拒絶の深化と宣教の転換】

### ■ 8章：地域的拒絶の予兆

- **ガダラ人の拒絶 (8:34)**
  - ▶ 悪霊追放の奇跡後、地域全体がイエスを「去ってくれ」と願う。**物理的追放の前兆。**

## ■ 9章：指導者層の霊的盲目

- **パリサイ人の非難 (9:34)**
  - ▶ 悪霊追放を「悪霊の頭で追い出す」と誹謗。**宗教的指導者による公式拒絶**が確定し、後の十字架への道が準備される。

---

## 【5. 11:5-6との対応の深化】

### ■ 8章：救いのわざの「初穂」

- 11:5の6つのわざのうち、「ツアラアトの清め」「足の癒し」「死人復活（予型）」が部分的に成就。

### ■ 9章：全項目の完全成就と「福音の拡張」

- 「貧しい者への福音」(9:35-38)が追加され、11:5の全項目が網羅される。
  - ▶ イエスが「羊飼いのない羊」(9:36)に宣教を拡げる場面が挿入され、**福音の普遍化**が明示される。

---

## 【神学的意義の差異】

### 1. 8章：メシア的権威の「基礎提示」

- ▶ イエスが「律法を超える権威」「自然を支配する力」「悪霊への勝利」を持つことを証明。**メシアの資格を示す段階。**

### 2. 9章：メシア的使命の「本格的展開」

- ▶ 罪の赦し(9:6)、新しい共同体の形成(9:15-17)、宣教の開始(9:35)を通し、**神の国がユダヤの枠を超える**ことが暗示される。

---

## 【結論】

8章が「イエスの権威の証明」に焦点を当てるのに対し、9章は「その権威がもたらす衝突と福音の転換」を描きます。

- **8章**：異邦人を含む「外への扉」を開きつつ、弟子の未熟さと地域の拒絶を提示。
- **9章**：罪の赦しという「内面的救い」を宣言し、ユダヤ指導者との決裂と宣教拡大へ向かう転換点となる。

この差異は、マタイが「イエスの生涯を、預言の成就から教会の誕生への過渡期」として描く編集意図を反映しています。